

おお大勝利

平成 23 年度山東サッカー部報第 14 号 (8 月 18 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

夏 心身ともに 鍛えられ

8月2日(火)~8月5日(金)にかけて苗場グリーンカップ(1次)に参加してきました。苗場の大会に参加するのは、キジマが2年、ミサワが1年の時以来ですから、3年ぶり2度目となります。山籠りをしたような隔離された環境で、「サッカーしかない! 合宿に来たんだ!」という気持ちになるととても良い経験を前回させてもらったことから、ちょっと間が空きましたが、今年再び参加させてもらいました。前回、寝坊した数人に(冬はスキー場になる)目の前の山の中腹までの罰走を軽い気持ちで(15分くらいで帰ってくるだろうというくらいの気持ちで)求めたところ、思いの外距離があったようで、1時間以上経っても帰って来ず、「事故に巻き込まれたのではないか・・・」と一人焦って待っていたことが、昨日のことに思い出されます。その苗場!! 今年も、ホテル グラウンド間のランニング、そしてサッカーを楽しみにして、苗場まで参りました。

旅館は前回同様のスプリングホテルさん。ホテルから送迎のバスは出してもらえますが、強くなるために夏の大会に参加しているわけですから、バスなどは使う訳がない。すべて人力で臨みます。選手には「行き帰りのランニングなどで自分の限界にチャレンジしていると評価された選手3名には、苗場のクラブハウスで売っているゲームシャツをプレゼントする」と約束¹。3泊4日のすべての日程において、山東にとっての第一試合の時間にかかわらず、5:30 散歩 6:00 朝食 6:50 グラウンドに向けランニング出発 到着後すぐ練習(または試合のアップ)開始、という強行軍。昼の休憩を除いては、名和トレーナー兼鬼フィジカルコーチによるランニング&体幹トレーニングのメニューを消化。正直、前回の苗場や今年のひたちなかとは、比べものにならないハードスケジュール。選手も日一日と疲労の色が見え隠れするものの、最後まで意欲的にトレーニングに臨んでくれました²。

今回、選手34名、マネージャー2名の大人数で参加していることから、AチームとBチームの2チーム登録。Aチームは、初日二日目、Y1に参加しているチームとは思えない低いパフォーマンス。そして、目の前の勝負に対して「絶対勝ってやる」

¹ この作戦は、毎年苗場の大会に参加している、東海大山形高校の作戦(ニンジン作戦)をパクらせてもらいました。

² 山形東サッカーOB会HPに、トレーニングや試合の様子がUPされておりますので、興味持たれた方はご覧ください。

という気迫が見られない。球際は軽いは、運動量は少ないは、そして最も悪いことに全く声が出ない！！ 指示(コーチング)の声が出ないだけならいざ知らず(それも問題視してきましたが) チームを鼓舞する声、叱咤激励する声すら出ない。見ていて、チーム一丸となって戦っていない姿に腹立たしさを通り越して、諦め・なげやりな気持ちが湧いてくるほど。「あとはお前たちで何とかしろ」と突き放しました。そしてBの試合に向かうと、なぜなんでしょう、いつも夏の大会、顧問の胸を躍らせてくれるのはBの戦いなのです。今年も第一試合などは、パスはつながるは、ゴール前で豪快なシュートが飛び出すはで、山東B祭りの様相。特にファンタジスタをよく産むことで知られる(?)山形一中出身の1年ナラオカが、中盤で憎いプレーを連発。Bの試合は、ミスはありますが、積極的なプレーが次々と飛び出し、見ていて気持ちが良い。プレーの気持ち良さとは、上手い下手の問題ではないんです。一生懸命トライしているか、一生懸命戦っているか、は見る人に伝わってくるのです。「いや～Bの試合は面白いな～」とこれ見よがしに、応援しているAの選手に言葉を投げかける。もちろん彼らは無言。一致団結して戦えていない自分たちと、Bキャプテンのハマを中心にまだまだではありますがAよりは声を出し合って戦っているBとの違いを感じたのでしょうか。

選手たちだけで行う夜のミーティング³の成果か、三日目からAの戦いも少しずつ変わってきて、声を切らさないように努力している姿は見受けられるようになる。サッカーの質はまだまだで、正直「県で一部にいる」などとは山形県に申し訳なく、絶対に口外できないパフォーマンスでしたが、徐々に連携が良くなっていると感じることができました。また、名和さんから、初日二日目、試合と試合の合間のランニングにおいて自分を追い込むトレーニングをしていない、だらけていると手厳しい評価を下されていたAの選手(の数人)たちも、三日目、最終日と意識の高い走りをしていました。誰のために走っているのか、厳しいトレーニングは何のためなのか、を問う良いきっかけとなったと思います。意識の高い選手は、やるからには意味のあることをする癖がついていると思いますが、早く全員が癖にしてほしいものです。結局Aは4位リーグ(ビリのリーグ)に進み、芳しい成果は上げられませんでした。出場チームの中で、最も過酷なトレーニングを積んだことは胸を張って言えます。

5日に山形に帰ってきて明るく6日は、本校グラウンドでの恒例のOB戦。20年前はナイターサッカーと呼んでましたが、早めに(ナイターを使う前に)切り上げて煮込みを食べるようになったからか、この呼び名はすたれたようです。今年のOBの集まり具合は若干さびしいものがありましたが、60代から10代までのOBがプレーを楽しみました。60代の秋保幹事長がゴールを決めたことは、ここに絶対に書き記さなければなりません。アシストも素晴らしかったですし、ゴールも鮮やかでした。それ以後も、OBの巧さ・老獪さが光る一方で、現役生のプレーは精彩を欠いてばかり。トラップミス、パスミスのオンパレード。現役生は何をしている、OBに花を持たせるのも程度があるぞ、と少しずつイライラが募りましたが、OBの方に気持ち良

³ 山東では、大会や合宿などで行われる夜のミーティングには、顧問は参加しません。なので、顧問も、選手に負けられないように自主的な夜のミーティングを欠かしません。

くプレーさせる長幼の序を重んじる選手たちだと思い込むことにします。プレー後は、恒例の佐門のもつ煮込みを校庭の中庭で頬張り、健闘を讃え合いました。

11日からは二泊三日で月山合宿。弓張平は天然芝があり、芝の状態が良好とはいえないものの、走り込みのついでにサッカーするだけなので問題なし。ここでも、志津温泉の宿とグラウンドの山道の往復はランニング。体だけでなく、「また走りかよ」という気持ちの萎えとの心の戦いでもある。二日目には、温泉街から姥沢駐車場(登山口)までの下見を兼ねたランニングで、最終日に備える。最終日は、国道112号線から姥沢駐車場までの約10kmの坂道・山道のランニング⁴。昨年は最終日までにケガ等で離脱者が続出し、山登りをしていない選手が目立ちました⁵。しかし今年は、ケガ一人一人が応援に回っただけで、後は(体調不良で合宿を途中で切り上げた一名を除いた)32人が完走を果たす。これは、走らない/走れない選手が続出した去年の状況を考えるに、よく頑張ったの一言。苗場で、心まで鍛えられた成果を見る思いでした。トップは58分7秒のキャプテンショータ。2位は昨年1位のヒデキで59分9秒、3位はユウタロウで59分59秒。3人が一時間を切りました。昨年はヒデキが65分で1位ですから、今年はよく頑張りました!!! 昨年のヒデキより早く走ったのが7名。1年生の1位は、心肺機能の強さはピカイチ、あとは脚力だけのユウダイで61分。ユウダイは来年、東海大山形2年S君が昨年叩き出した55分という驚異の記録⁶に挑戦してもらいたいものです。(自主的に)アンカーを引き受けてくれたのが、記録96分の1年コテッチャン。入学当初から13キログラムほど痩せたそうですが、走りはまだまだ重たいぞ! 最後はみんなで全体写真を撮影して温泉街まで下山しました⁷。

この夏、例年よりも対外試合が少なく、実戦経験を多く積むという意味では鍛えることができませんでした。心身ともに辛いところに追い込まれながら、そこをみんなで乗り切るといった経験は、例年以上にできたと思っております。こうした経験には即効性はなく、次の試合ですぐ役立つわけではありませんが、漢方薬のようにじわじわと効いてくるでしょう。最後に、遠征において保護者会の皆さまより激励金を頂戴しました。また苗場遠征において佐々木さんより差し入れ頂戴しました。また月山合宿に際して、OB会の皆さまと大築さんより差し入れ頂戴しました。ありがとうございました。

早速下記の通り、公式戦がございますので、応援よろしくお願ひします。

8月21日(日) Y1第13節 VS 東海大山形 12:00~ @山形商業G

⁴ ちなみにこの企画も、注1と同様、東海大山形のパクリでございます。

⁵ 斎藤大三君など、昨年走っていない三年生が最終日に顔を出して一緒に山登りするつもりだ、という話を選手から聞いていましたが、結局来ず。現役生はみんな先輩方の心意気に期待をしていたのですがね・・・。

⁶ モンテディオ山形の指笛係としても知る人ぞ知る選手。ぜひ大学では、箱根駅伝を目指していただきたいです(本気)。

⁷ これらの写真も、マネージャーの携帯で写真を撮り、後藤報道局長に送信して、HPにUPしてもらいましたので、どうかご覧ください。